片山タイムズ

第十号
（特別号）

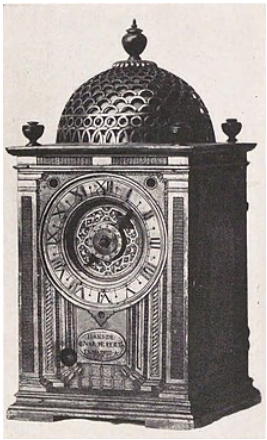
令和五年
三月吉日

徳川家康とお茶と静岡

静岡県内は今年の大河ドラマに関連して、“徳川家康”で話題が沸騰しております。

徳川家康の長い生涯で一番多く過ごした静岡県。特に浜松市や静岡市はゆかりのある土地です。

久能山東照宮には徳川家康の洋時計や刀剣などがありますが、静岡県内に家康の由来のものが少ないように思います。



家康の洋時計(Wikipediaより)

茶の湯に関するものはあまり聞きません。家康が茶の湯にあまり興味がなかったという説もありますが信長・秀吉に仕える時間が長かったため当然茶の湯に触れる時間はそれなりにあったかと思われます。

それではなぜ静岡にそのような道具が少ないかといいますと、駿府御分物に起因しています

駿府御分物帳(徳川美術館HPより)

駿府御分物

駿府御分物（すんぷおわけもの）は元和２年（１６１６年）４月17日に家康が亡くなると、駿府城には残された遺産を、尾張家（愛知）、駿河家のち紀伊家（和歌山）、水戸家（茨城）に分与されたまた一部は久能山にも納められました。その分けた財産目録のようなものが”駿府御分物”です。

現存するのは尾張家本　駿府御分物帳」で名古屋の徳川美術館に所蔵されています。

尾張徳川家は徳川３００年の世では一度も将軍職を輩出してはいませんが、御三家筆頭であったのと尾張徳川家は明治に入り早くに美術館構想をたてたこと、そして先の大戦で多くの美術品が放出される中も頑なに守り抜いたことによって多くの家康の遺品の茶道具を所蔵しています。

翻って静岡に何もないのは、駿河家が三代家光の時に御取りつぶしになったためではないでしょうか。今となっては非常に残念ですね。

毎年秋には徳川美術館で「徳川茶会」が開催されます。わたくしが以前お伺いしたときは、待合のお軸は康が鷹狩をした行程の自筆を軸装したものがかけられていました。

他にも利休が作った茶杓　銘「虫喰」など多くの茶道具を見ることができました。興味ある方はぜひ一度足をお運びください。

https://www.tokugawa-art-museum.jp

徳川美術館HP

利休百首

ならひつつ　見てこそ習へ　習わずに
よしあしいうは　愚かなりけり

30年前、日本にプロサッカーリーグ「リーグ」ができたとき、「あんなものくだらない・つまらない」「野球やラグビーのほうが面白い」と言っていた方たちがいました。

本来批判するならまずその対象となるものに自らが入り込みやってみる。それができなければ本当に「つまらない」などの批判はできないと思います。口先だけの批評では周りの人は納得しないというものです。

六関斎泰叟宗室

元禄七年(１６９４年)、不休斎常叟宗室の長男として生まれます。政吉郎と命名されました。宝永元年(１７０４)、不休斎常叟宗室32歳という短命で没し、11歳で裏千家を継承します。この時には裏千家に残されたのは六関斎と妹の二人だけだったといわれています。弟が２人いたとされますが、早くに亡くなっているからです。十六歳から伊予松山藩主に出仕し、松山藩の京屋敷留守居を任されとされています。父と同様、士官先の松山・江戸そして金沢、京都の移動は体力を蝕み翌享保十一年(１７２６)、江戸屋敷へ下ったが慣れぬ東国での疲労と妻を亡くした失意から、妹と一人娘を京都に残し三十三歳の若さで亡くなってしまいます。

六関斎は「能」や「狂言」を学びまた歌詠みが非常に上手と知られています。江戸在京中に残した「茶の道はたとるに広しむさし野の月のすむなる奥そゆかしき」は大変評価が高いとのことです。儒学も学んでおり、「六関斎」の号の出展が儒学的なものであるとい説もあるほどです。

最々斎竺叟宗室

宝永六年(１７０９年)、表千家六代　覚々斎原叟宗左の次男として生まれる。六閑斎泰叟宗室が子がなかったためにから養子として裏千家へ迎えられます。

その後、先ほど書いたように六閑斎泰叟宗室が若くして亡くなったことを受け十八歳でを裏千家七代家を継承します。

実父である表千家六代覚々斎原叟宗左ならびに兄の表千家七代如心斎天然宗左から茶道を習います。ちなみに父の代覚々斎原叟宗左も久田家から表千家への養子です。

茶会の記述などが少なく人物評があまりなくまた２５歳という若さで独り身のまま短い生涯を終えています。

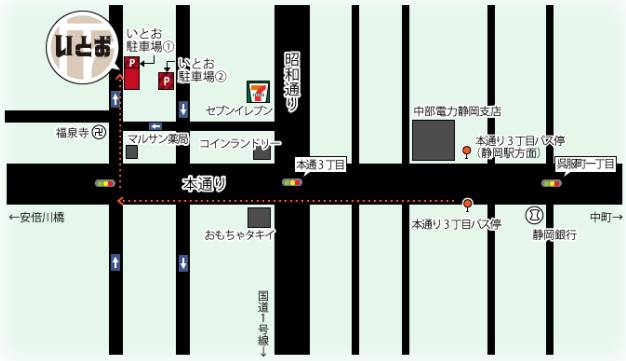
用品・お道具の購入

お茶をはじめられる時、またある程度お稽古が進み、家でちょっと楽しみたいとかお稽古の復讐したいとき、茶筅や茶巾、お茶碗など道具や用品を購入したい場合どうしたらいいかお問い合わせがあります。

最近はインターネット上のECサイトで簡単に買うこともできますが、思わず安いと思って買った袱紗が品質が非常に良くなかったなどトラブルもあります。実際に物を見て買わないとあまりよくないものを手にする場合も。そんな心配がないのが店頭販売です。静岡にもいくつか茶道具屋さんがありますが、今回は「いとお」さんを紹介します。

静岡市葵区にある「いとお」さんは、各流派の道具を取り扱ってます。当社中のお稽古の道具や、初茶会の皆様への品もこちらで購入しています。社長と奥様、そして若夫婦が店を取り仕切っています。若夫婦の旦那様は裏千家の青年部や地区のDX委員をされています。奥様は表千家でお茶を習われてます。とても丁寧に接してくれますので、何かご入用の場合はご利用ください。

茶道具・花器　いとお



〒420-0027　静岡市葵区大工町5-5　TEL：054-255-2385

社中紹介

特大号では、社中のメンバーを3人ご紹介したいと思います。

藪崎さん

最も長く所属されている生徒さんです。当社中に所属されてもう40年以上になります。

茶会や、社中の行事では藪崎さんに聞けばなんでもわかります。お茶以外にも趣味は広く詩吟も長年習われています。

その詩吟の全国的なコンテスト　第58回コロンビア吟詠音楽会にて地方予選を勝ち抜き昨年12月4日に中野サンプラザで行われた本戦に出場されました。

そして見事な歌声を披露され見事「準グランプリ」となりました。

今年の初茶会で、一節ご披露いただきました。

詩吟コンテストでの藪崎さん

石上さん

焼津市内で全国にも有名な宿「月と鮪石上」の女将をされています。

過去にも雑誌ソトコト・ことりっぷ・旅行新聞など、多くの雑誌・新聞等から取材をうけ掲載されてきましたが、今回は「婦人画報」に掲載をされました。オンライン版からも見ることができますので、ぜひご覧ください。

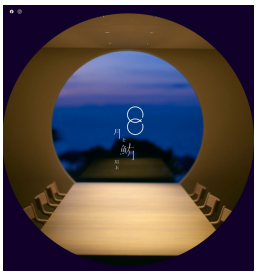
社中でランチにお伺いしたこともあります。またぜひ皆さんとご一緒にいきたいですね。

石上さん(前列左)

https://www.fujingaho.jp/gourmet/japanese-quisine/g43268851/tsukitomaguro-ishigami-yaizu-230320/

婦人画報 オンライン

https://www.magurono-oyado-ishigami.net



月と鮪 石上

秋庭さん

秋庭さん

当社中に入門されて10年くらいになります。もともとは、静岡市役所にお勤めしており仕事の後に通われてお茶のお稽古をされていました。

淡交会青年部で藤枝委員会の委員長をしたこともあります。現在はロシアにある「東方国立大学」（Северо-Восточный государственный университет）にて日本語と日本文化を教えています。

コロナや昨今の情勢でここ数年はなかなか帰国できない現状ですが、今年の夏には帰国しお稽古もされるとのことですので、またお稽古ご一緒の時はよろしくお願いします。

茶会での秋庭さん(右は槙野さん)

また、秋庭さんがロシアで教えておられた、ヴォルコトルプ バグダンさんが来日し、お稽古をしました。4月より1年間京都外国語大学で日本語を学びます。

夏には同様に当社中にてお稽古をすることがあるかもしれませんので、またよろしくお願いします。

お稽古をされる バグダンさん

ロシアでの授業風景

片山社中 all rights reserved.